文部科学省
地(知)の拠点

平成25年度
地(知)の拠点整備事業報告書

(COC：center of community)

—看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業—

大分県立看護科学大学

Contents

ご挨拶

大分県立看護科学大学理事長兼学長…… 1

大分県立看護科学大学 看護研究交流センター長 …… 2

Ⅰ.大分県立看護科学大学地(知)の拠点
(COC：center of community)整備事業の概要

1 大分県立看護科学大学の取り組み…… 5

2 看護学生による予防的家庭訪問実習を通した
地域のまちづくり事業…… 6

3 学部教育のカリキュラム改革
ーより地域へ貢献する大学へー…… 7

4 地(知)の拠点(COC：center of community)
整備事業の評価…… 8

Ⅱ.大分県立看護科学大学地(知)の拠点
(COC ：center of community)整備事業の推進組織体制

1 大分県立看護科学大学COC事業推進組織体制 …… 11

2 大分県立看護科学大学COC事業推進会議関係者 … 12

Ⅲ.大分県立看護科学大学 地(知)の拠点
(COC ：center of community)整備事業の実施報告

1 平成25年度事業経過報告 …… 15

2 平成25年度事業推進会議 …… 16・17

3 予防的家庭訪問実習 テスト訪問の実施 …… 18・19

4 コロラド大学名誉教授 Kathy Mgilvy博士
COC事業対象地域への調査…… 20・21

5 平成25年度事業報告会 …… 22

資料

- 大分県立看護科学大学地(知)の拠点整備事業推進会議設置要綱
…… 25
- 大分県立看護科学大学地(知)の拠点整備事業推進会議幹事会
運営要領…… 26
- 平成25年度地(知)の拠点整備事業幹事会メンバー…… 26
- 平成25年度地(知)の拠点整備事業推進会議委員名簿 … 27

ご挨拶

少子高齢化は現代日本が直面する大きな課題です。これは全国的に共通した問題であり、本学が立地する大分県も例外ではありません。

文部科学省の「地（知）の拠点整備事業（COC）」は、大学が地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めることを支援するものです。

本学は平成25年５月にこれに応募し、幸いにも全国319校中52校の１つとして採択されました。

本学のテーマは「看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業」です。この実習は、１年生から４年生までの学生がグループとなり、一緒に地元の高齢者のご家庭を訪問しながら４年間をかけて予防活動を行うものです。

定期的かつ継続的に家庭訪問をすることで、高齢者の健康維持につながることを期待しています。学生は４年間、地元の高齢者のご家庭を継続して訪問することにより、その日常生活を理解し、長期的かつ継続的な看護について学びます。同時に、地域全体を学ぶことができます。これらの学びは看護職としてとても必要なものです。また本学は、この事業を通して、地域の方々と一緒に、活力ある地域社会を作っていきたいと思います。本実習を経験した学生が卒業し、地域で活躍することができるよう、全学あげて取り組みます。

本学は、平成10年に開学以来、「心豊かな人材の育成」「看護学の考究」「地域社会への貢献」を建学の精神として掲げて参りました。平成20年には大学院修士課程に実践者養成コースを設置し、日本で初めて、ナースプラクティショナー（診療看護師、NP）の教育を始めました。また平成23年度からは、全国に先駆けて、保健師教育と助産師教育を大学院修士課程で教育するように致しました。このように、本学は、社会のニーズを敏感に察知し、次の時代に活躍できる看護師、保健師、助産師と研究者の教育に取り組んできました。今回、「看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業」を行うことにより、更に地（知）の拠点となり、その方法論を蓄積し、全国と世界に発信していきたいと思います。

ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

平成27年3月

大分県立看護科学大学 学長　**村嶋　幸代**

ご挨拶

看護研究交流センターは平成25年度から組織を再編成し、５つの部門(地域交流部門、NP教育推進部門、継続教育部門、学術ジャーナル部門、国際交流・留学生部門)からなる体制に変更し、組織を強化してまいりました。この中で、地域の看護職や地域の人々を大学として支援するための地域交流部門が設置されました。地域の看護職に対しては、看護研究の支援を行うことで各医療機関における看護の質向上のための研究を本学教員が支援していく事業を行っています。また、医療職の方々に対しては統計情報処理相談を開いています。

地域の人々を直接支援する事業を大学が行うのは公開講座が中心でありましたが、文部科学省の地(知)の拠点事業(COC)が開始されたことで、看護研究交流センターを中心として本学は「看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業」に取り組む計画を立てました。

「予防的家庭訪問実習」とは、４年間の看護教育の中で、学生が地域の高齢者を訪問し、コミュニケーション能力の向上を通して、高齢者の健康支援を考える機会をつくることでした。このような試みは、教育が地域交流をしながら地域の健康支援につながる活動として本学は注目したわけです。

大分県立看護科学大学は、平成23年度入学の学生から、看護の基礎教育を重点化し、従来あった保健師と助産師の養成教育を大学院化しました。このような背景にあって、COC事業として、「予防的家庭訪問実習」を４年間の教育に中に取り入れ、学生から見ると、教育の場として地域を活用させていただく一方で、地域から見ると、地域の人々が大学の学生と交流していくことでより健康的な生活をみつけていくための契機にならないかと考えたのです。

「予防的家庭訪問実習」は、学生の教育と地域交流という２つの側面から見ると、看護研究交流センターのみの活動に留まることはできません。「予防的家庭訪問実習」は看護研究交流センターが事務局的な役割を果たすことになりますが、全学的な取組みに発展したことになります。全学的な教育に発展したことで、人間科学系の教員を含めた全学の教員が「予防的家庭訪問実習」に関わるようになりました。従来からある「看護実習」の延長ではなく、地域と大学との結びつきをより強くするための恒常的な取組みに発展していくことが求められています。

大分県立看護科学大学が創立された当時は、大分郡野津原町に位置していましたので、旧野津原町から現在の大分市野津原地区とのつながりは高齢者の体力測定を通した健康支援プロジェクトなど深いつながりをもってきました。一方で、富士見が丘団地は大学の目の前に広がる大分でも古い団地ですが、地域の様々な催し物や、大学祭(若葉際)に地域の人々と学生が一緒に交流する機会が日頃からある地域です。いずれも高齢化率が高く、「予防的家庭訪問実習」のフィールドとさせていただくには絶好の場所であったといえます。

文部科学省の地(知)の拠点事業を契機として、本学が人材育成としての教育と地域貢献の２つの側面から役割を果たしていくために、「予防的家庭訪問実習」の今後の発展に関係者の皆様の応援をお願い申し上げます。

平成27年３月

大分県立看護科学大学 看護研究交流センター長　**甲斐　倫明**

I

大分県立看護科学大学
地（知）の拠点（COC）
整備事業の概要

地（知）の拠点整備事業報告書

大分県立看護科学大学

1 大分県立看護科学大学の取り組み

地域の課題

本学は、北東に富士見が丘団地、南西に旧野津原町が広がっており、両地区とも「高齢化率」が高く、独居高齢者や老夫婦の増加という現代の日本が直面する共通の課題を抱えている。

野津原地区

面積：93.75㎢　人口：4,733人

東西12.5㎞　南北7.5kmの広大な土地に4,733人が住んでいる。高齢化率は平成25年3月には39.0%と高い。地域で支えあう習慣はあるが、若者が激減しており、これまで高齢者を支えてきた人たちも、高齢者になりつつあるという問題がある。また、山間部ほど高齢化が進み、集落が小規模で分散している。

公共の交通機関がほとんどないため、病院、スーパー、郵便局等へのアクセスが自力では難しい。人口の減少が深刻で、高齢者の孤立化が課題となっている。

富士見が丘団地

面積：2.6㎢　人口：7,576人

昭和40年代に開発された一戸建て住宅からなる東西2.0km、南北1.3kmにわたる郊外型団地である。開発後、約40年を経過するため高齢化が著しく、かつ、その進行が早い。65歳以上の人口割合は、平成25年3月には31.8%となり、毎年1.1～2.3%増えている。

富士見が丘団地では、高齢者の独り暮らし、高齢夫婦が多い。自治会は３つあり、連合自治会も活動し、介護予防プログラムも運営されて活発である。一方で坂と階段が多く、高齢者が外出しにくい。公民館でサロンが開かれても、高齢者が徒歩でアクセスするのは難しい状況であり、介護予防のイベントを行っても決まった人しか集まらないため、自宅に閉じこもっている人にどのようにアプローチをするかが課題となっている。

共通の課題

孤立しがちな高齢者への対策

▼

キメ細かいアウトリーチが必要

2 看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業

事業内容

学生たちが大学4年間を通して継続的に家庭訪問を行い、高齢者の健康状態や生活実態などを把握し、地域の高齢者ができるだけ自立して自宅で暮らすことができるよう機能低下予防を行うことによって、地域の再生・活性化に寄与することを目的とする。

❶高齢化の進む地域で、学生が予防的家庭訪問実習（看護実習として新設）を行う。孤立化しがちな75歳以上の高齢者に対し、卒業までの４年間に定期的かつ継続的に家庭訪問を実施し、高齢者の機能低下を予防する。
❷アウトリーチにより、早期に把握された高齢者の問題は、学生が地域の健康課題として集約し、公民館等で健康教育等を行う。また、早期に対応が必要な場合は、当該高齢者の了解を得て、然るべき機関につなげ、解決を図る。
❸定期的に行政や自治会、高齢者クラブ等の組織や団体と話し合う場を設け（事業報告会）、一緒に地域の課題を解決していく（まちづくり）。

地域の問題

❶加齢に伴う虚弱化等による外出困難・閉じこもり・孤立化
❷認知症および孤独死の増加
❸孤立した高齢者を見守る自治会役員等の負担感
❹アウトリーチするマンパワーの不足

地域再生・活性化
元気なまちづくり

看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業

事業推進会議

自治会、地区民生児童委員協議会、地区社会福祉協議会、郡市医師会、看護協会、地域包括支援センター、国保連合会、大分市、大分県、看護科学大学
- 事業計画：目標の評価・検討
- 家庭訪問、健康教室、事業報告会等で得られた情報をもとに、**地域全体の活性化対策を検討・実施**

予防的家庭訪問

学生
- 高齢者を理解し、健康状態把握 ４年間（３～４回／年）
- 予防の計画と実践指導者（教員等）
- 家庭訪問技術と知識の指導
- 高齢者支援の指導

健康教室

学生
- 家庭訪問で見出された問題に対して、学生グループが合同で健康教室やまちの保健室を開催

参加者
- 家庭訪問高齢者・地域住民・自治会・高齢者クラブ等

事業報告会

学生
- 家庭訪問実習の成果報告
- 高齢者への支援対策を地区ぐるみで検討・実施
- 地域と協同でまちの保健室を運営

参加者
（野津原・富士見が丘地区）高齢者、自治会、関係者等

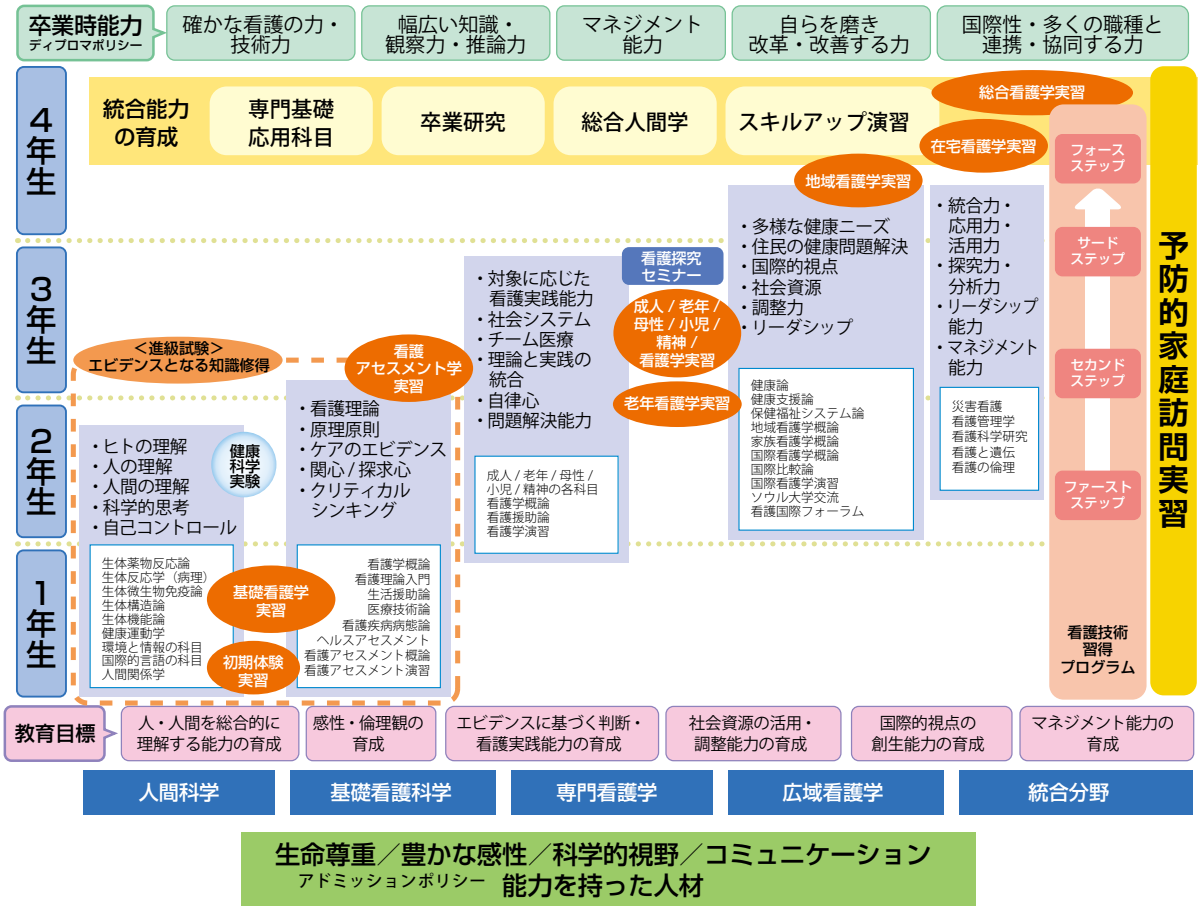
大分県立看護科学大学

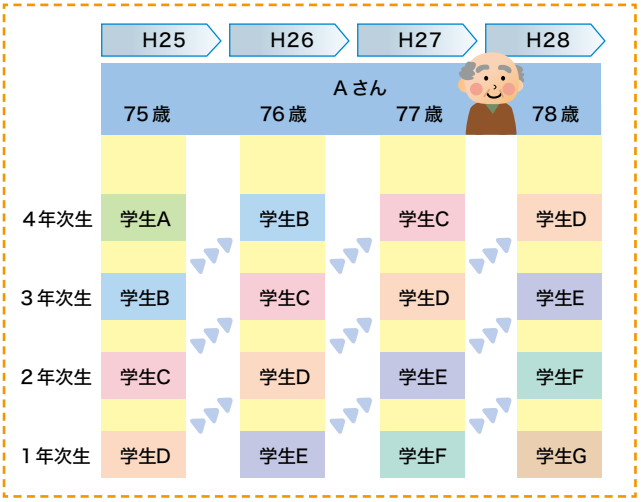
カリキュラム改革・地域志向の人材育成
家庭訪問による高齢者の健康状態データの蓄積と解析

3 学部教育のカリキュラム改革 ーより地域へ貢献する大学へ

現行の看護学実習は、急性期医療の場を中心に展開されているため、学生が在学中に一人の対象者を長期間かけて看護するという視点が育ちにくい。この限界を打破するため、カリキュラムを改正して予防的家庭訪問実習を創設し、学生が４年間を通して自宅で生活する高齢者を担当し、継続的に訪問する過程で対象者への理解を深め、ニーズに合わせた支援ができることを目指す。

本学のカリキュラムは４年間の看護師教育を志向したプログラムであり、６段階の臨地実習により看護実践能力の習得を目指したものである。これに、予防的家庭訪問実習を導入し、地域を志向したカリキュラムに変革する。





予防的家庭訪問実習は１～４年次の異なる学年をグルーピングしたチューター制度を導入して行う。学生は学年を超えたグループメンバーと共同作業を行うこととなり、他の学年との交流や意見交換が可能となる。

各学年の相談担当者は、その学年で関わりの深い科目の教員が行う。全体を通して定期的に実習合同会議を開催するため、教員同士の相互交流も図れる。

また４年間同じ高齢者を担当することにより、高齢者の人生を長期的な視点で支えることの重要性を理解し、継続的に関わることのできる看護師を目指す。

4 地（知）の拠点（COC：center of community）整備事業の評価

対象となる高齢者・地域・学生と大学の各々が得る事項について評価指標をたてて評価する。事業開始当初には、下記の指標を立てた。議論の中で修正を図っていく予定である。

対　象	課　　題	対策（本事業）	効果（アウトカム）
高　齢　者	・加齢に伴う虚弱化等による外出困難・閉じこもり・孤立化 ・認知症および孤独死の増加	・看護学生の訪問受入で定期的な会話と役割感を持つ ・定期的健康管理 ・近所の健康教室等へ参加・外出	・孤立化緩和（人に会う回数の増加、閉じこもり・うつ傾向減少） ・QOLの維持・向上 ・救急搬送・受診回数の減少 ・入院・入所の日数や回数の減少・介護保険認定状況の改善
地　域 富士見が丘団地 野津原地区	・孤立した高齢者を見守る自治会役員等の負担感 ・アウトリーチするマンパワー不足 ・地域の衰退	・孤立しがちな高齢者を訪問するマンパワー確保 ・学生が定期的に地域に入ることで活力が得られる	・孤立しがちな高齢者にアウトリーチできる ・学生の訪問により高齢者や地域の活性化・再生、町づくりへ発展 ・介護予防のイベントやサービスへ参加者増加
大　学	・短期間の看護学実習・対象者を生活の場で長期間支援する体験が難しいカリキュラム ・家庭訪問する機会・期間が限られている教育・限定的な教授方法	・4年間通して同一対象者をフォローし、健康状態を見ていく実習体験 ・必要事項を見出して健康教育・ カリキュラム改革	＜学生＞高齢者への継続的関わりで、家庭訪問・コミュニケーション・健康教育・アセスメント・ケアマネジメント等技術の向上 予防的視点と問題解決思考が訓練される ＜大学＞教育方法の改善・改革 地域高齢者の健康状態経年把握

II

大分県立看護科学大学
地(知)の拠点(COC)
整備事業の推進組織体制

1 大分県立看護科学大学 COC 事業推進組織体制

大学が地域に出掛ける意義：地元の各機関をつなぐ機会へ

大学生が予防的家庭訪問実習を行うことにより、地域高齢者の状況が明らかになり、より深く地域の現状がわかる。本学の教育研究活動を通して、地域の課題を吸い上げ、明確にし、本学と地域全体でその課題に対応する方策を考え、解決策に結び付けることが重要である。地域関係者と会議や報告会を実施することにより、事業を円滑に進め、同時に地域の課題を一緒に考える共通基盤を創る。

（1）学内の事業推進体制

❶COCプロジェクト

COC事業の運営・事業計画の検討・事業の評価計画の検討を行うなど、COC事業の中心的役割を果たすプロジェクトである。各部門（実務・教育・事業評価）を連動させ、事業を遂行する。

❷看護研究交流センター

地（知）の拠点整備事業を担当し、COCプロジェクト事務局と連携し、COC事業の運営・事業計画の検討・事業評価計画などを行う。また、地域や連携自治体への窓口として、野津原地区・富士見が丘団地の地域組織との連携、協力者との連携を図る。

（2）事業推進会議

大学と地元の関係者によって構成された事業推進会議を年3回開催し、事業の計画及び、中間評価、事業評価などを行う。（メンバーは次頁のとおり）

（3）事業報告会（予防的家庭訪問実習報告会）

本事業推進による成果や課題を地域の方と共有するため、年1回、地域で事業報告会を開催する。

報告会では、学生が家庭訪問での学びや明らかになった高齢者の生活機能や健康状態の実態について報告し、自立して生活しつづけるための対策などを提案する。また、必要に応じて、保健・医療・福祉のトピックスなどの健康教育を実施する。

2 大分県立看護科学大学 COC 事業推進会議関係者

野津原地区関係	
自治委員連絡協議会野津原地区	会長
地区社会福祉協議会	会長
民生児童委員協議会	会長
地域包括支援センター	センター長
大分市市民部野津原支所	支所長
西部保健福祉センター野津原健康支援室	参事補兼室長

富士見が丘地区関係	
連合自治会	会長
横瀬地区社会福祉協議会	会長
横瀬地区民生児童委員協議会	会長
稙田西地区地域包括支援センター	センター長
大分市市民部	参事兼稙田支所長
西部保健福祉センター	参事補
西部保健福祉センター	主任保健師

大分県医師会	
大分市郡市医師会	副会長

大分県看護協会	
大分県看護協会	副会長

大分市関係	
長寿福祉課	課長
長寿福祉課	参事補
大分市保健所	次長兼健康課長
大分市保健所	健康課参事

大分県	
福祉保健企画課	地域保健・情報班主幹
医療政策課	看護班課長補佐（総括）
高齢者福祉課	地域包括ケア推進班主幹（総括）

大分県国保連合会	
事業課	課長
事業課	保健事業班主（総括）

Ⅲ

大分県立看護科学大学
地(知)の拠点(COC)
整備事業の実施報告

地（知）の拠点整備事業報告書

大分県立看護科学大学

1 平成 25 年度事業経過報告

平成24年　3月1日	地(知)の拠点整備事業（COC）説明会（文部科学省：学長）
4月～5月	地元の関係機関を訪問、学内会議２回
5 月22日	★申請書類提出
7 月19日	面接審査（学長・事務局・総務リーダー）
8 月 2 日	★採択通知
8月5日～9日	各部門に採択報告（学長・事務局長・プロジェクトリーダー） 大分県医療政策課、大分市長寿福祉課、大分県国民健康保険団体連合会、野津原支所、稙田西地域包括支援センター、介護福祉支援センター、富士見が丘連合自治会、岩波内科クリニック
8 月 7 日	採択大学等対象説明会（東京：事務局・総務リーダー）
8 月27日	学内会議
8 月29日	挨拶：大分市西部保健福祉センター
9 月 4 日	学内全体説明会
9 月13日	挨拶：大分県福祉保健企画課・医療政策課・高齢者福祉課 ：大分県国民健康保険団体連合会 ：大分市長寿福祉課・大分市保健所健康課
9 月24日	挨拶：大分県郡市医師会事務局 ：野津原支所 ：野津原地区地域包括支援センター
9 月25日	挨拶：大分市社会福祉協議会：富士見が丘公民館
9 月27日	挨拶：大分県郡市医師会会長
10月 1 日	挨拶：大分市保健所長
10月 7 日	挨拶：富士見が丘連合自治会
10月 8 日	第１回COC事業推進会議幹事会 挨拶：大分市郡市医師会副会長
10月 9 日	挨拶：大分県看護協会
10月10日	挨拶：野津原地区自治会
10月15日	第１回COC事業推進会議
10月31日	挨拶：大分市企画課・住宅課
11月14日	第２回COC事業推進会議幹事会
11月14日～11月20日	Kathy Magilvy先生（エスノグラフィーの専門家）来日、両地区の地区診断実施
12月18日	学生による予防的家庭訪問実習のテスト訪問実施（富士見が丘団地）
12月19日	学生による予防的家庭訪問実習のテスト訪問実施（野津原地区）
平成26年 1 月22日	事業報告会（富士見が丘団地）
2 月 3 日	事業報告会（野津原地区）
2 月 7 日	第３回COC事業推進会議幹事会
2 月18日	第２回COC事業推進会議
2 月下旬	予防的家庭訪問実習の説明用チラシ配布（富士見が丘団地）

2 平成 25 年度事業推進会議

第 1 回　事業推進会議

1 日時：平成25年10月15日（火）14：00～15：00
2 場所：大分県立看護科学大学 中会議室
3 出席者：30名
4 議事
　1）事業概要について
　2）地域の事業周知について
　3）家庭訪問対象者について
　4）事業の推進方法について
　5）意見交換
5 協議内容
　1）協力者の募集方法
　　個人情報に厳しい昨今、どのように地域の高齢者に周知徹底していったらよいか。
　　回答　チラシを全戸に配布し、自主的に協力者を募るのがよい。
　　協力者が集まらなかった場合は、地域包括支援センターや自治委員、民生委員と連絡をとりながら対象者を決めていくという方法がいいのではないか。

第 2 回　事業推進会議

1 日時：平成26年2月18日（火）14：00～15：00
2 場所：大分県立看護科学大学 中会議室
3 出席者：38名
4 議事
　1）平成25年度事業報告
　2）平成26年度事業計画
　3）意見交換
5 協議内容
　1）協力者の募集方法
　　平成27年度訪問実習に向けての協力者の募集方法について協議、募集用チラシを全戸に配布することとする。
　2）事業内容についての評価
　　平成25年度の訪問や事業報告会（地域交流会）に関して、地域の人の反応や改善点について検討。

平成 25 年度第 1 回事業推進会議

看護科学大

地域の高齢者方訪問
相談、体調をチェック

県立看護科学大学（大分市廻栖野）は、学生が地域のお年寄り方を訪問して、健康に関する相談に乗ったり、体調をチェックする事業に取り組む。同大学は「お年寄りの孤立を防ぎ、地域の活性化につながる。学生は長期間、特定のお年寄りに接することで、内容の濃い実習ができる」と期待している。

事業は大学周辺の富士見が丘団地と野津原に住む75歳以上のお年寄りが対象。異なる学年の4人一組でグループをつくり、1～2カ月ごとに、受け入れを承諾した高齢者方に出向く。

同大学でこのほど事業推進会議の初会合があり、大学の他、地元自治会や行政の関係者約30人が出席。村嶋幸代学長が「より良い事業にしたい」とあいさつし、内容を説明した。

取り組みは「看護学生による予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業」として、本年度、県内の大学では唯一、文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」に採択された。年度内に試験的に始め、2015年度から本格実施する。

看護学生の予防的家庭訪問実習事業推進会議の初会合＝大分市

平成 25 年 11 月 1 日　大分合同新聞夕刊

3 予防的家庭訪問実習 テスト訪問の実施

・野津原地区１名・富士見が丘団地１名の協力者の自宅に、それぞれ学生２名が訪問（計４名）

訪問実習の目標

1）在宅で生活する高齢者を生活者として全体像をとらえることができる
2）高齢者とコミュニケーションを取ることができる
3）高齢者の健康・生活機能の在り様を観察・アセスメントすることができる
4）必要な支援を考え、必要に応じて情報提供やケアを行うことができる
5）訪問実習で得られた情報や訪問結果を適切に記録することができる

予防的家庭訪問実習の結果

1　平成25年12月19日　野津原地区　予防的家庭訪問実習

学生の感想

・在宅実習とも異なり、医療の介入の必要のない高齢者だったので、健康な高齢者に対して予防的になにができるか考える機会になると思う。
・病院実習で、退院指導を行う際に、実際の生活がイメージができなかったが、生活している高齢者を知ることで、指導も具体的になると思う。
・地域の関わりがしっかりあることがわかった。健康な高齢者の方と関わって、予防の視点で関わることが家庭訪問のいいところだと思った。
・基本的な人間関係ができていないといけない。まずはお話をじっくり聞く、お互いを知ることから始めた方がよいと思う。信頼関係ができていないといけない。
・グループ内の学生も縦のつながりもあった方がよい。そういう機会をもちたい。

・下の学年が気を使うのではないだろうか。先輩後輩がある。訪問に行く前に打ち合わせする時間は必要。
・対象者は運動も食事面も完璧だった。人生の大先輩から学べた。
・病院実習などでは元気な人のところに行く機会は少ない。残存機能をみることができる。元気な人をみてから病院実習にいけば、入院患者を生活者としてみることができる。
・退院指導を考えた時に、生活導線や環境などがイメージでき具体的に関われるかもしれない。生活が想像しやすい。
・マナーについて統一して教えて欲しい。４年生は地域実習に行くので診る視点はつく。
・先輩から教えてもらえる。
・縦のつながりができる。
・４年生の考えを聞く、まとめたりすることで勉強になる、生かせる。
・対象者の方が楽しみにしてたと言ってくれてよかった
・お互いが楽しめてやれるのであれば、実習を続けることができると思う。

2　平成25年12月18日　富士見が丘団地　予防的家庭訪問実習

学生の感想

・地域での生活者を知ることで、病院実習の時に退院後の生活がイメージでき、退院指導につなげることができる。
・病院実習では退院に向けて指導するが、実際家でできているか分からない。家での生活を知ることができる。家にあるもので代用、工夫するなどいろんなアプローチができる。
・家でくつろいで、ゆっくり話すことができる。家族の話は家庭訪問の方が聞きやすい。病院では周囲に気をつけなければならないので聞きにくい。
・地域の交流がわかる。
・家にあるものを見ることで趣味や好みもわかる。
・実際に家に行くことで、家庭状況、手すりなどを見ること、普段の動きを知ることができ、具体的な関わりができそう。
・生活上の困った点が具体的にわかり、学生、対象者ともに学びになる。
・年単位の訪問回数では少ないと思う。
・学生や高齢者の負担を考えると年単位の訪問で回数も妥当ではないか。
・１～４年まで集まるので時間を調整、事前学習やまとめをする時間など、時間調整が難しいと思う。
・病院実習の間の訪問はどうするのか。
・家族とどのような関わりをもったらよいか。
・訪問先に行く際の交通手段、交通事故などが心配。
・お茶やお菓子が出た時の対応はどうしたらいいのか。
・対象者に何かあった時の連絡体制（かかりつけ医など）はどのようにとったらいいのか。
・１年生のときから地域での生活者、患者ではない人を知ることができるので、病院実習の退院指導がより具体的に考えられるようになる。
・看護大と地域住民が関わりを持つことができる。

・全学年にマナーや服装などの講習が訪問前には必要。
・1～4年生で訪問すると多くの視点で対象者を見ることができる。勉強になる。
・誰かが実習で行けなくなった時、特に上級生がいない時どうするか心配。
・各学年の関係を築ける。
・上の学年の責任感がでる。
・下の学年は学べる。
・４年生には責任があり不安になる。４年生の負担が多くなるのは困る。
・訪問開始時の４年が一番大変だと思う。
・訪問してみて最初は緊張したが、楽しかった。
・面白い。地域と関わりがもてることが嬉しい。得るものは大きいと思う。
・他の学生は実習がふえることに拒否反応を示すかもしれないが、行ったら楽しくやると思う。興味ない人はいると思うが、意図や目的がわかればやる気になると思う。
・学生としても長期で関われることで、地域で生活する高齢者の生活が理解できる。
・１年生はきっと萎縮してしまうのでフォローが必要。

4 コロラド大学 名誉教授 Kathy Mgilvy 博士 COC 事業対象地域への調査

第１回　Kathy Magilvy 先生によるエスノグラフィーメソッドの勉強会議事録

1 開催日時：平成25年10月16日（水）13：00～14：30

2 場　所：地域看護学研究室

3 出席者：

Kathy先生への依頼：村嶋

国際交流委員会 ：シャーリー、江本

看護研究交流センター：福田

地域看護学研究室：佐藤（玉)、鈴木、岡元（記録）、小田

地域看護学研究室（ゼミ生)：森口、関

4 記　録：岡元

5 資　料：

Schedule in Japan for Dr. Magilvy & Ms. Beach：Nov.16 - Dec. 8

6 協議内容：

1）村嶋学長よりKathy先生の来学の経緯と国際交流員会及び看護研究交流センター担当者の紹介

2）Kathy先生の来学中のスケジュールの確認（資料１）

3）村嶋学長よりKathy先生からエスノグラフィーメソッドを教わるための具体案の提案

4）ゼミ生２名（森口、関）による地域看護診断の発表（日出町）

7 決定事項：

1）エスノグラフィーの専門家であるKathy先生から実践的なご指導を頂ける貴重な機会なので、有志の学生を募り、地区診断及び地区踏査（Kathy先生同行）を実施し、最終的にFarewell Party 等で発表する機会を設ける（詳細な日時等については別紙参照）。

2）有志の学生は、時期と発達段階から考えて、２年生を対象とする。10月30日（水）２限の地域看護学概論時に村嶋先生から呼びかける。それに際し、岡元がチラシを作成し、配布する。

3）対象地区はＣＯＣとの兼ね合いも考慮し、大分市富士見が丘地区と野津原地区の２地区とする。学生数は４名ずつ計８名が望ましい。

4）有志の学生がまずは大分市の全体像をイメージすることができるように、長寿福祉課の生野裕子参事補もしくは健康課の後藤英子次長に市の概要の説明を依頼する。できれば地域看護学概論の講義の中に組み込んで、２年生全員が聴講できると望ましい。

5）有志の学生が概要を把握した後あるいは同時並行で、富士見が丘担当の小田原保健師と野津原担当の木崎保健師に岡元が連絡をとり、地区毎のデータや分析の視点などを頂く。学生は それらをもとに、コミュニティアズパートナーモデルを用いて情報を模造紙に整理して記載、同時に模造紙にマッピングを行う。学生なりの視点で、健康問題を明確化することをねらいとする。地区診断の指導及び日程調整は主に岡元が担当する。

6）Kathy先生との地区踏査には、可能であれば大分市の木崎保健師と小田原保健師にも同伴を依頼する。

7）桑野先生が担当している国際交流関係のサークル学生にはFarewell Party等のサポートを依頼する。

COC 事業対象地域の地区踏査
学生・教員による地域高齢者への
インタビュー風景

県立看護大生

高齢者の生活調査

交通事情や健康状態

地域看護を研究する県立看護科学大学（大分市廻栖野）の学生らは24日、岡市野津原地域で、お年寄りの移動手段や生活スタイルなどを調査した。小規模集落で助けを必要とする高齢者の交通事情や健康状態を把握し、家庭訪問などを通して地域活性化につなげる。

岡大学は、学生が地域のお年寄り宅を訪問して健康に関する相談に乗ったり、体調をチェックする「予防的家庭訪問実習を通した地域のまちづくり事業」が文部科学省の「地（知）の拠点整備事業」の採択を受けている。本格実施する2015年度を前に調査を始めている。

翌根由美子さん、深水志帆さん＝いずれも2年＝が小学校で開かれていたイベントの参加らすがりのお年寄りを呼び止め、世帯構成や生きがい、生活で不便なことや急病といった緊急時の対処法などを聞き取った。

地域看護学の専門家で、アドバイスのため来日したコロラド大学（米国）のキャシー・マギルビー名誉教授は「日本は過疎・高齢化の進行があまりに急で社会的支援が追い付いていない。新たな方策を見つけるため、地域に積極的に加担してほしい」と助言していた。

高齢者から買い物や公共交通など生活スタイルを聞き取る県立看護科学大学の学生ら＝24日、大分市野津原町

平成 25 年 11 月 25 日　大分合同新聞夕刊

5 平成25年度事業報告会

目的

予防的家庭訪問実習は、在宅で生活する高齢者を支えるため、高齢者の健康を継続した視点からとらえ、変化に応じて支援する重要さを学ぶことを目的としている。本年度は平成27年度からの本格導入に先立ち、訪問実習を行った結果、方法、内容、評価指標等についての情報が得られた。これらを次年度の本実習に向けて報告し、効果的に進めるために事業を検討し、地域と情報共有をはかるために事業報告会（地域交流会）を行った。

参加者

富士見が丘団地の参加者

地区住民、富士見が丘連合自治会長、
横瀬地区社会福祉協議会長、
民生児童委員協議会富士見が丘代表者、
稙田西地区地域包括支援センター長、
大分市西部保健福祉センター保健師参事補、
主任保健師、大学教員・事務局員

野津原地区の参加者

地区住民、自治委員連絡協議会野津原地区長、
野津原地区社会福祉協議会長、
野津原地区民生児童委員協議会長、
野津原地区地域包括支援センター長、
大分市市民部野津原支所長、
大分市西部保健福祉センター野津原健康支援室
参事補兼室長、大学教員・事務局員

内容

❶学生の家庭訪問結果および学びの報告等
❷家庭訪問実習受け入れ協力者（対象者）による経験談等
❸意見交換

協力者の意見

- 若い人が来ると、孫がくるような感じで嬉しい。
- 戦時中の話など昔話になるが、若い子が知らない話もしてあげたい。貴重な話になると思う。今まで、そういった機会がなかった。
- 2～3か月に1回の訪問のペースでいいと思う。年寄りは楽しみに待つと思う。
- 高齢者は体が不自由になるから、その不自由な面を補う介護用品などの情報提供をすると喜ぶと思う。
- 今回は40分くらいだったから、十分に話ができなかった。1時間はあったらいいと思う。
- 学生が高齢者から聞きたい情報や学びたいことなどテーマを決めて質問してもらえるとこちらも話しやすい。

資　料

地（知）の拠点整備事業報告書

大分県立看護科学大学

大分県立看護科学大学地（知）の拠点整備事業推進会議設置要綱

目 的

第１条　地（知）の拠点整備事業を大分県立看護科学大学（以下、「大学」という。）と地域、関係機関が連携して効果的に推進し、地域住民の健康寿命の延伸と生活の質の向上を図ることによって、地域のまちづくりに寄与するとともに、大学として新たな取り組みによる質の高い看護教育効果を達成できるよう事業計画や進行管理、評価等を行うため事業推進会議（以下、「会議」という。）を設ける。

任 務

第２条　会議は、次に掲げる事項について検討協議する。

（１）事業推進計画に関すること。

（２）事業の中間評価、事業評価に関すること。

（３）その他事業の推進に関すること。

組 織

第３条　会議は、委員 30 人以内で組織する。

２ 委員の任期は１年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

３ 会議に委員長及び副委員長を置く。

４ 委員長及び副委員長は、委員の互選により選出する。

職 務

第４条　委員長は、会議を招集し、その議長となる。

２ 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

代 理

第５条　委員である者が会議に出席できない場合には、その会議当日のみ代理の者を委嘱された委員の代わり委員と認めるものとする。

幹事会

第６条　会議に、事業の推進に関する調査研究を行うため、幹事会を置く。

庶 務

第７条　会議の庶務は、大分県立看護科学大学が行う。

雑 則

第８条　この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附則　この要綱は、平成 25 年 10 月 1 日から施行する。

大分県立看護科学大学地(知)の拠点整備事業推進会議幹事会運営要領

目 的

幹事会は、大分県立看護科学大学地（知）の拠点整備事業推進会議設置要綱に基づき、地（知）の拠点整備事業（以下、「事業」という。）の効果的な推進について研究することを目的とする。

任 務

幹事会は、次に掲げる事項について研究を行う。
（1）事業の計画に関すること。
（2）事業の評価、見直しに関すること。
（3）その他事業の推進に関すること。

組 織

（1）幹事会は、幹事若干名で組織する。
（2）幹事会は、必要があると認められるときは、関係者に出席を求めて意見を聴くことができる。

庶 務

幹事会の庶務は、大分県立看護科学大学で行う。

そ の 他

この要領に定めるもののほか、幹事会の運営に必要な事項は別に定める。

附則　この要綱は、平成 25 年 10 月 1 日から施行する。

平成25年度地(知)の拠点整備事業　幹事会メンバー

平成25年10月15日現在

区　分	氏　名	所属・組織等	役　職
野津原地区	川本浩史	野津原地区地域包括支援センター	センター長
	木崎美穂	西部保健福祉センター野津原健康支援室	参事補兼室長
富士見が丘団地	野口咲美	稙田西地区地域包括支援センター	センター長
	岩本美保子	大分市保健所西部保健福祉センター	参事補
	小田原純平	大分市保健所西部保健福祉センター	主任保健師
大分市	生野裕子	長寿福祉課	参事補
大分県立看護科学大学	村嶋幸代		学長
	佐藤玉枝	地域看護学研究室	特任教授
	福田広美	看護研究交流センター	准教授

平成25年度地(知)の拠点整備事業推進会議　委員名簿

平成25年10月15日現在

区　分		氏　名	所属・組織等	役職等	
野津原地区	1	佐藤　克治	自治委員連絡協議会野津原地区	会長	
	2	分藤　靖弘	野津原地区社会福祉協議会	会長	
	3	工藤富士隆	野津原地区民生児童委員協議会	会長	
	4	川本　浩史	野津原地区地域包括支援センター	センター長	
	5	天野　秀幸	大分市市民部野津原支所	支所長	
	6	木崎　美穂	西部保健福祉センター野津原健康支援室	参事補兼室長	
富士見が丘団地	7	佐々倉幸義	富士見が丘連合自治会	会長	
	8	竹上　浩二	横瀬地区社会福祉協議会	会長	
	9	高田かず子	横瀬地区民生児童委員協議会	富士見が丘担当	
	10	生野　信頼	富士見が丘公民館	事務長	オブザーバー
	11	野口　咲美	稙田西地区地域包括支援センター	センター長	
	12	仲野　龍男	大分市市民部	参事兼稙田支所長	
	13	岩本美保子	大分市保健所西部保健福祉センター	参事補	
	14	小田原純平	大分市保健所西部保健福祉センター	主任保健師	オブザーバー
大分市郡市医師会	15	岩波　栄逸	大分市郡市医師会	副会長（岩波クリニック院長）	
大分県看護協会	16	甲斐久美子	大分県看護協会	第二副会長	
大分県国民健康保険団体連合会	17	大塚　英治	事業課	課長	オブザーバー
	18	大島　敦子	事業課	保健事業班主幹（総括）	
大分市	19	十時　昌彦	長寿福祉課	課長	
	20	生野　裕子	長寿福祉課	参事補	
	21	後藤　英子	大分市保健所	次長兼健康課長	
	22	竹野美和子	大分市保健所	健康課参事	
大分県	23	内田　弘子	福祉保健企画課	地域保健・情報班主幹	
	24	甲斐　優子	医療政策課	看護班課長補佐（総括）	
	25	柳井　孝則	高齢者福祉課	地域包括ケア推進班主幹（総括）	
大分県立看護科学大学	26	村嶋　幸代		学長	
	27	甲斐　倫明	環境保健学研究室・看護研究交流センター	研究科長・看護研究交流センター長	
	28	市瀬　孝道	生体反応学研究室	学部長	
	29	安部　昭邦		事務局長	
	30	朝倉　秦三	総務グループ	課長補佐・リーダー	
	31	佐藤　玉枝	地域看護学研究室	特任教授	
	32	藤内　美保	看護アセスメント学研究室	教授	事務局
	33	小野　美喜	成人・老年看護学研究室	教授	
	34	福田　広美	看護研究交流センター	准教授	
	35	稲垣　　敦	健康運動学研究室	教授	
	36	宮内　信治	言語学研究室	准教授	学内委員
	37	河野　梢子	看護アセスメント学研究室	助教	

資料

平成25年度地(知)の拠点整備事業報告書　編集委員

甲斐　倫明　(看護研究交流センター　センター長)
佐藤　玉枝　(COC プロジェクトリーダー)
朝倉　泰三　(総務グループリーダー)
福田　広美　(看護研究交流センター　准教授)
今池　純子　(看護研究交流センター　臨時助手)
板井　里枝　(看護研究交流センター　臨時助手)
巻野　希和　(看護研究交流センター　臨時助手)
時松　栄里　(看護研究交流センター　臨時助手)
神崎　純子　(看護研究交流センター　事務員)

学長、学部長と共に　2015.3.5 撮影

発行日　2015年３月15日
発行者　大分県立看護科学大学　看護研究交流センター
〒870-1201
大分県大分市大字廻栖野2944－９
TEL 097-586-4300（大学代表）
TEL 097-586-4346（看護研究交流センター直通）